



大岡昇平全集

第八卷



大岡昇平全集 第八卷

定價 四五〇〇円

昭和四十九年七月十五日 印刷

昭和四十九年七月二十五日 発行

著者 大岡昇平

発行者 高梨 茂

印刷者 山田 博

発行所 中央公論社

東京都中央区京橋二丁目
電話(五六一)五九二二

振替東京三四

検印廃止

©一九七四

大岡昇平全集 第八卷 目次

小説 八

レイテ戦記

一 第十六師団

昭和十九年四月五日

第十六師団のレイテ島進出
レイテ島とその周辺
米軍のホーラ
ンディア上陸と比島の防衛

3

二 ゲリラ

比島ゲリラの歴史
日本軍政下のゲリラ
レイテ島とその周辺の
ゲリラ
第十六師団のレイテ島展開

12

三 マッカーサー

米軍の反攻作戦
レイテ島上陸作戦の決定

19

四 海軍

捷号作戦計画
第十四方面軍と第三十五軍の新設
米機動部隊の
沖縄、ルソン島攻撃
台湾沖航空戦
スルアン島に米軍上陸
大本營の敵情判断

24

五 陸軍

聯合艦隊の捷一号作戦警戒発令
米艦艇をレイテ湾に確認
捷一

31

号作戦の発令 山下奉文大将の清任とそのレイテ決戦に対する判断

六 上 陸

十月十七日—二十日

米軍のレイテ島上陸準備 米第一騎兵師団のホワイト・ビーチ上陸
米第二四師団のレッド・ビーチ上陸 十字架山の戦闘 米第九六
師団と第七師団のドラグ地区上陸 第十六師団の対上陸作戦

七 第三十五軍

第四航空軍と第一航空艦隊のレイテ湾の米艦艇攻撃 神風特別攻撃
隊編成 第二航空艦隊クラークフィールドに進出 小沢、志摩、
栗田艦隊の出撃 米軍上陸時の第三十五軍の態勢と作戦指導

八 抵 抗

十月二十一日—二十五日

ドラグ地区の米軍 第二十聯隊第三(河田)大隊の水際防禦 米軍
のブラウエン進出と銚田第二十聯隊長戦死 井畑敏一等兵とブラ
ウエン戦闘 カトモン山周辺の米軍と第九聯隊、野砲第二十二聯隊
の善戦 米軍、第十六師団作戦命令を入手 小川幹雄伍長と第二
十聯隊のヒンダンの戦闘 第二十聯隊第一大隊の十字架山夜襲
パロ付近の米軍と第三十三聯隊の防禦戦 鈴木第三十三聯隊長の最
期 パロの米第一九連隊、斬込隊の夜襲をうける 米第一騎兵師
団タクロバンを占領 米軍サマール島に上陸作戦 タクロバンに
おけるフィリピン民政府帰還宣言

九 海 戦

戦

十月二十四日—二十六日

聯合艦隊の作戦構想 栗田艦隊の出撃 シンヤン海海戦と艦艦

「武蔵」の沈没 栗田艦隊の反転 聯合艦隊司令長官の全軍突撃
命令 西村艦隊とスリガオ海峡の戦闘 志摩艦隊の戦闘 小
沢艦隊の南下 米艦隊の判断と行動 栗田艦隊サマル島沖に進
出 サマル沖の海戦 栗田艦隊の回頭 小沢艦隊のエンガノ
岬沖の戦闘 比島沖海戦の日米両軍の収支決算 比島沖海戦後の
日本艦隊

十 神 風

菊水隊、朝日隊、敷島隊の特攻 特攻戦法と神風特別攻撃隊 大
和隊の特攻 義烈隊、忠勇隊、純忠隊、誠忠隊の出撃 特攻構想
と特攻兵器の製作 陸軍の特攻

十一 カリガラまで 十月二十六日—十一月二日

ブリ飛行場の攻防戦 プラウエンロダガミ道の戦闘 タボンタボ
ンの攻防戦 米軍のカトモン山攻略戦 キリンの攻防戦 米軍
のダガミ攻撃と第十六師団の防禦戦 マイニット川の戦闘 パス
トラーナの日本軍堡壘 ハロの戦闘 第四十一(炭谷)聯隊、独歩
第百六十九(西村)大隊、天兵大隊のカリガラ防衛戦 米軍判断を誤
り、カリガラ攻撃遅れる 独歩第百七十一(田辺)大隊のカリガラ到
着と金子参謀の作戦指導 米軍カリガラに進出

十二 第一師団

北滿警備から捷号作戦機動予備へ レイテ戦の決戦師団としてオル
モックに上陸 片岡第一師団長の先行 先遣の今田捜索第一聯隊、
米軍と不期遭遇戦に入る

十三 リモン峠 十一月三日―十日

クルーガー第六軍司令官の作戦的苦慮 宮内第五十七聯隊長のリモン峠到達と第一師団の作戦 第一師団各聯隊の任務 米第二一連隊リモン峠に進出 十一月五日、第五十七聯隊第三佐藤大隊の攻撃 第五十七聯隊、二人の大隊長を失う 七日の戦闘 米第二一連隊長更迭 八日、九日の激戦 リモン攻略に腐心する米第二四師団 米軍、日本将校の戦死体から情報入手 揚田第一聯隊の任務と困難な前進 米軍二つの迂回部隊 十日、十一日リモン峠正面の戦闘

十四 軍旗 十一月十一日―十五日

第一師団の追及三個大隊と軍旗三旋のオルモック上陸 第五十七聯隊第一(吉岡)大隊の戦線加入 十日、十一日の米軍の攻撃と第五十七聯隊第二(長嶺)大隊の善戦 米軍戦車に対する肉薄攻撃 十二日、勝山高地、勝山分哨高地に拠点確保 野砲第一聯隊の展開と射撃開始 スブラギンス大隊とクリフォード大隊の迂回進出 十三日の米軍のリモン峠攻撃 十四日、十七日の米軍の戦闘 ヴァーベック第二一連隊長の「敵戦闘方法」の報告 米第二四師団長アービング少将の解任 土居参謀の指導と第一師団参謀部の動静 第一聯隊をリモン戦線に転用

十五 第二十六師団

北支よりルソン島へ レイテ島へ進出命令 今堀独歩第十二聯隊の先遣と師団主力の輸送

十六 多号作戦

第二十六師団主力のレイテ輸送と海軍護衛隊 第三、四次輸送と栗田艦隊の陽動作戦 多号作戦の構想と第一、二次輸送の成功 十一月五日の米機動部隊のルソン空襲と山下方面軍司令官の意見具申 大本営レイテ戦遂行を決意 第三次輸送の編成 第四次輸送編成とオルモック湾の被爆 第三次輸送の護衛隊の被害 寺内南方総軍司令官のレイテ戦続行の決意 第十四方面軍の「レイテ決戦指導要領」 第二十六師団の到着による日本軍のレイテ島決戦兵力とその補給

十七 脊梁山脈

レイテ島の脊梁山脈と交通路 米第一九連隊A中隊の脊梁山脈での苦闘 ラアオ山の今堀支隊 感状授与の笠井挺身隊 総軍参謀高橋少佐と今堀支隊長 十一月初旬の第十六師団の抵抗 第十六師団伊藤和市衛生上等兵の回想 米第三二連隊の一部パイパイに出 米第三二連隊長ダムランに進出、オルモック攻撃を準備 斎藤支隊(独歩第十三聯隊基幹)アルブエラに布陣

十八 死の谷

十一月十六日—十二月七日

第一聯隊カフランに到着 第一聯隊第二(原口)大隊リモン戦線左翼に戦闘加入 第一聯隊倉持中隊とスブラギンズ大隊の戦闘 原口大隊とクリフォード大隊の戦闘 スブラギンズ大隊の隠密行動 第一聯隊第一(横田)大隊の戦闘加入 スブラギンズ大隊苦難の退却 原口山の激戦 軍司令部の第一師団に対する攻勢督促 第

四十九聯隊のカポーカーン、クラシアン方面への攻撃　野砲第一聯隊第一(沼田)第三(秋吉)大隊の陣地固守と秋吉大隊長の戦死　二十一日の第一聯隊のリモン川の激戦　米軍のリモン北峠戦闘終了宣言とその損害　日本軍のブラウエン奪回作戦と米軍のオルモック逆上陸企図　多号作戦第五次輸送　米二個連隊のオルモック街道遮断任務　二十日の第五十七聯隊の状況　勝山高地の戦闘　第五十七聯隊第二(長嶺)大隊の禿山高地攻撃　土居參謀の情報所開設　リモン川の「死の谷」　第一聯隊主力のリモン戦線加入　二十三日、二十四日のリモン峠の攻勢　二十六日、二十七日の第一聯隊の夜襲　二十二日～二十九日の原口山の激闘　三ツ嶺高地―五五二高地間に米第一二六連隊浸透　第四十九聯隊主力の十一月下旬の行動　第四十九聯隊第一(横田)大隊の十七日夜の斬込み　第四十九聯隊第二(田村)大隊クラシアン岬に米軍を駆逐　野砲第一聯隊第二(早尾)第四(平野)大隊のクラシアン砲撃　カポーカーン、クラシアン地区の米第三四連隊の戦闘　第四十九聯隊の苦闘　第四十九聯隊田辺中隊の五五二高地の戦闘　米第一一二連隊カブランの第一師団司令部を包囲　原口大隊の善戦と大隊長の戦死　野砲陣地危殆に陥る　勝山高地と勝山分哨の状況　日向集成中隊を野砲陣地に増援　軍より第一師団に前田集成大隊配属　第一師団正面の米連隊交替　第四十九聯隊主力を師団司令部付近に招致　土居參謀の軍司令部派遣　友近少将の第一師団に対する感想　今堀支隊の第一師団配属を約す　第四十九聯隊横田大隊の苦戦と聯隊本部のカブラン北方への前進　野砲第一聯隊の孤立と聯隊長の独断離脱　米第七七師団二個連隊のイビル上陸と今堀支隊を同方面に転用　第六十八旅団サン・イシドロに擱座上陸　第四十九聯隊、工兵第一聯隊の

カフラン正面の防禦
リモン峠の日米兩軍の戦闘經過の総括

十九 和号作戦

大本營の作戦指導と決戦兵力増強案
多号作戦第五次輸送
義号作戦と薰空挺隊
多号作戦第六次輸送と航空部隊の協力
第四航空軍の天号作戦
高千穂空挺隊
ブラウエン攻略作戦(和号作戦)の構想
多号作戦第七次輸送
第三十五軍戦闘司令所を推進
ブラウエンの米軍の状況

二十 ダムランの戦い 十一月二十三日—十二月七日

斎藤支隊(独歩第十三聯隊基幹)
独歩第十三聯隊第三(重松)大隊をブラウエン道に先遣
米第七師団第三二連隊パイパイに進出
独歩第十二聯隊第二(井上)大隊バラナス川付近で米軍と遭遇
斎藤支隊と米軍の兵力裝備
二十三日、二十四日のバラナス川付近の戦闘
斎藤支隊配属の砲兵
苦闘する米軍
二十五日の井上大隊の夜襲
独歩第十一聯隊第二(大川)大隊の夜襲
米第三二連隊危機に陥る
斎藤支隊長の戦闘指揮
血染めの竹藪の激戦
米第七師団の北進と斎藤支隊の抵抗
九一八高地の戦闘
大川大隊の退却戦
ダムランの戦闘と第三十五軍の動向
大川大隊の斬込み

二十一 ブラウエンの戦い 十二月六日—七日

鈴木軍司令官ルビに戦闘司令所を推進
山下方面軍司令官のブラウエン作戦の構想
重松先遣大隊ブラウエン四キロに進出
第四航空軍の天号作戦
ブラウエン地区の米軍
米軍の得た天号作戦情

報 ブラウエン周辺の地形 重松大隊の偵察と攻撃準備 第二十六師団の集結遅滞 第十六師団の状況と和号作戦準備 伊藤和上等兵と和号作戦 第十六師団のブリ飛行場斬込み 米軍救援部隊を急派 香取空挺隊の降下 サンパブロ飛行場の戦闘 バユク飛行場北方の戦闘 七日、米第七七師団オルモック南方に上陸 和号作戦、天号作戦の中止 第十六師団のブラウエン攻撃報告 高千穂降下隊の戦闘

二十二

オルモック湾の戦い

十一月二十七日—十二月七日

米軍オルモック逆上陸時の日本軍の配置 第十四方面軍の敵情判断 陸軍の輸送用潜水艦 多号作戦第七次輸送とオルモック湾の海戦 日本陸海軍の航空戦力 米上陸軍船団と神風特攻 第四航空軍の石腸隊、鉄心隊、万葉隊、一字隊の攻撃 米軍のオルモック上陸作戦 米上陸軍に対する情報判断 米軍上陸と光井オルモック防衛隊 多号作戦第八次輸送の失敗 第六十八旅団サン・イシドロに上陸 第四航空軍の特攻 海軍の第七桜井隊、第三千早隊の特攻 米軍橋頭堡拡張 米第七七師団の北進 今堀支隊をオルモック防衛に転用 第三十五軍司令部フアトンに移動 オルモック戦の日米両軍の損害

二十三

オルモックの戦い

十二月八日—十五日

独歩第十二聯隊第一(上条)大隊をオルモック防衛に先遣 光井防衛隊とキャンプ・ドーンズの激戦 今堀支隊主力オルモックに到着 バレンシアに降下の高千穂挺進第四(斎田)聯隊をオルモック防衛に使用 軍戦闘司令所と重松大隊の退却 オルモックの防衛戦力

米軍キャンプ・ドーンズを占拠 第三十師団の第七十七(新郷)聯隊主力のバロンボン上陸 第八師団第五(高階)聯隊主力とカモテス支隊バロンボンに上陸 米軍のオルモック攻略作戦 米第七師団と第七七師団の連繫成る 米補給船団に第一金剛隊の特攻 海軍陸戦隊のオルモック上陸と護衛駆逐艦の戦闘 レイチ島への最後の多号作戦輸送 オルモックの攻防戦 独歩第十二聯隊第三(立石)大隊のプロックハウスの激闘 今堀聯隊長の苦衷 オルモック港米軍占拠 米軍ミンドロ島に上陸 第十四方面軍の決号作戦中止

二二十四 壊

滅

十二月十三日—十八日

決号作戦 服部卓四郎大佐のレイテ決戦指導に関する報告 第十四方面軍の決号作戦発令 加藤美納一等兵と決号作戦 決号作戦中止 ミンドロ島上陸米軍部隊の船団 第四航空軍の八紘隊、旭光隊、護国隊、靖国隊の特攻 海軍第二金剛隊の特攻 米第三八機動部隊と日本陸海軍の特攻 米軍のミンドロ島上陸と日本軍守備隊 大本営陸軍部の人事異動 鈴木軍司令官フアトン司令部に帰着 第三十五軍オルモック奪回を企図 米軍のオルモック河谷北上作戦 タンプコ地区の第七十七聯隊の防禦戦闘 第三十五軍司令部米軍と接触後退 オルモック奪回作戦成らず 米軍フアトン、バレンシアを占領 レイチ島の報道班 目賀田少尉と久恒記者

二二十五 第六十八旅団

十二月七日—二十一日

十二月六日までの第二十六師団、第十六師団、第百二師団、第一師団

二十六 転

進 十二月十二日—二十一日

の状況 第一師団から第六十八旅団に連絡斥候を派遣 第六十八旅団の編成と輸送 サン・インドロに擱座上陸 独立白砲第二十二大隊 第六十八旅団の上陸後の戦闘と進路 米軍のサン・インドロ逆上陸

第五十七聯隊リモン峠から三ツ嶺高地に撤退 第一師団参謀長の更迭 第一、第五十七聯隊カブランの師団司令部位置に集結 第一師団正面の防禦 第四十九聯隊横田大隊と工兵第一聯隊芝生中隊の独断後退 野砲第一聯隊主力の独断離脱 ビナ山方面の第百二師団二個大隊と第四十一聯隊の防禦戦 米軍カタバラン山の野砲陣地を攻撃 米軍、第一師団の正面を圧迫 十八日の師団予備兵力土居参謀を軍司令部に連絡派遣 第三十五軍レイテ島西北部に兵力集結を企図 軍司令部敵襲をうける 自活自戦命令 土居参謀第一師団司令部に帰着 米軍オルモック街道を遮断 野砲第一聯隊早尾大隊壊滅 第一師団司令部野口、島津隊の防禦戦 第一師団司令部周辺の戦闘と第四十九聯隊横田大隊長の戦死 第一師団から第百二師団へ連絡電報発信 第一師団の転進 第五聯隊米軍の進出を阻止 米第一〇軍団と米第二四軍団連繫成る

二十七 敗

軍 十二月二十二日—三十一日

十二月十八日の大本営陸軍部の作戦指導会議 サマール島に米軍作戦拡大 小沼少将の第十四方面軍参謀副長着任とルソン持久作戦 第三十五軍に対する比島中南部永久抗戦命令 脊梁山脈中に取り残された第十六師団 伊藤和市上等兵の体験 第二十六師団の状況

二十八 地号作戦

昭和二十年一月一日—二十日

と山森曹長の体験 軍司令部兼松大尉今堀支隊に転進命令伝達
第百二師団の転進 第百二師団と行を共にした第五十七聯隊内山
雄軍曹 第一師団の転進開始 輜重第一聯隊、師団司令部に合
流 米軍と遭遇、師団通信隊長津田大尉他の戦死 第一師団と第
六十八旅団連絡成る 二十五日第一師団長の掌握した師団戦力
米軍の長射程砲の砲撃をうけ、第一師団獣医部長関根中佐戦死 第
四十九聯隊第五十七聯隊西海岸に到達、米軍と衝突 第三十五軍反
撃を企図 方面軍命令により自活自戦を指示 第三十五軍司令部
の転進 米軍の追撃と高階支隊の抵抗 パロンボンに米軍上陸
二十六日マツカーサーのレイテ作戦終了宣言 第三十五軍司令部各
兵団にカンギボット山周辺に集結を指示 二十九日時点の第一師団
の戦力 米軍の第一師団攻撃 工兵第一聯隊長原中佐、師団副官
市川大尉他戦死 米軍アビハオに威力偵察 第一師団軍所命の位
置に到達、防備配置完了 十二月下旬の米第一騎兵師団の状況
第六十八旅団のピリヤバの戦闘 米第三二師団レイテ島西北部に進
出 コンヒサオ方面の高階支隊の抵抗止む 山下方面軍司令官の
「第三十五軍司令官ニ与ウル訓示」

年末年始の内地の空襲被害 レイテ決戦の失敗と大本營の敵情判
断 一月一日のカンギボット周辺の日本軍 第三十五軍掌握下の
諸隊兵力と米軍の状況 今堀支隊の転進とナグラン山麓の正月
福榮第百二師団長のレイテ島脱出 加登川参謀の十一月三十日—一
月四日の行動と見聞した諸隊の状況 福榮中将一行のセブ島独断渡
航 地号作戦の計画 軍参謀長和知中将他のセブ島転進 野砲

二十九

カンギポット

一月二十一日—四月十九日

第一聯隊長第一師団司令部に到達 引地大尉他暗号書処理のため敵中カプランに派遣 パリティに米軍上陸 一月八日の兵団長会同 第一師団のセブ島転進計画 米軍のルソン島上陸作戦軍に対する特攻 米軍リンガエン湾に上陸 第四十九聯隊主力のセブ島転進 アヒハオに米軍来襲 第一師団の転進援護作戦 第五十七聯隊のセブ島転進 第一師団司令部、第一聯隊主力他セブ島転進 セブ島の日本軍兵力 輜重兵第一聯隊など第四次セブ島転進 第一師団のセブ島転進兵力 搜索第一聯隊カンギポットに到達 第一師団の地号作戦継続の努力

レイテ島西北部の地形 カンギポットとその周辺 レイテ残置部隊の統帥と集結状況 大本營の本土決戦構想と敵情判断 レイテ島の米軍 脊梁山脈中の第十六、第二十六師団の敗兵 山県第二十六師団長の戦死 ある兵士の投降 俘虜収容所 米軍のレイテ掃討作戦 セブ島の第一師団 第五十七聯隊神子伍長等のレイテ島脱出行 第一師団配属内田戦車中隊ネグロス島に脱出 カンギポット周辺の各部隊 東嶋大尉手記による今堀聯隊の状況 第一師団のセブ島における龍作戦 第三十五軍通信隊村川中尉等竹筏でセブ島に渡る 内山艇隊による友近軍参謀長等のセブ島転進 鈴木軍司令官のレイテ島脱出 セブ島の海軍第三十三根拠部隊の特殊潜航艇 鈴木軍司令官ミンダナオ島へ渡航を決意 第三十五軍司令部バンカーに分乗セブ島を出発 鈴木軍司令官の戦死 友近軍参謀長ミンダナオ島に到達

ルソン島の持久戦　バラワン島に米軍上陸　米軍の南シナ海制圧の企図　米軍プエルト・プリンセサに上陸　ミンダナオ島サンボアンガに米軍上陸　パナイ島に米軍上陸　ネグロス島の第二飛行師団主力のミンダナオ島転進　アメリカル師団のセブ島上陸　セブ島の第一師団の防衛戦と小浦第四十九聯隊長の戦死　ボホール島に米軍上陸　ビサヤ諸島における日米両軍の損害　ミンダナオ島の第三十師団、第百師団　米軍のホロ島、サンガサンガ島上陸と北部ボルネオ作戦　米軍のレイテ作戦の損害　日本軍のレイテ作戦投入兵力と損害　比島決戦参加総兵力と損耗　レイテ島残置將兵の運命　カンギボット地区からの生還者堀込上等兵の証言　今堀聯隊の最期　人肉食いについて　日本陸軍の徹底抗戦主義の犠牲　今堀聯隊東嶋大尉によるレイテ島最後の記録　敗戦を決定したレイテ作戦の戦略戦術　日米両軍がレイテ島住民に与えた損害　フクバラハップ　フィリピンに主権返還　アメリカのフィリピン解放の経過　フィリピンとマッカーサー　米軍とフクバラハップ　戦後のフィリピンとアメリカ　レイテ島の日米両軍の戦鬪の意味するもの